

Accuphase

SUPER AUDIO CD TRANSPORT



SUPER AUDIO CD



スーパーオーディオCDトランスポート

DP-100

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、早くなるべく10日以内に「ご返送ください。お客様カードと引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠ マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠ 警告： この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠ 注意： この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

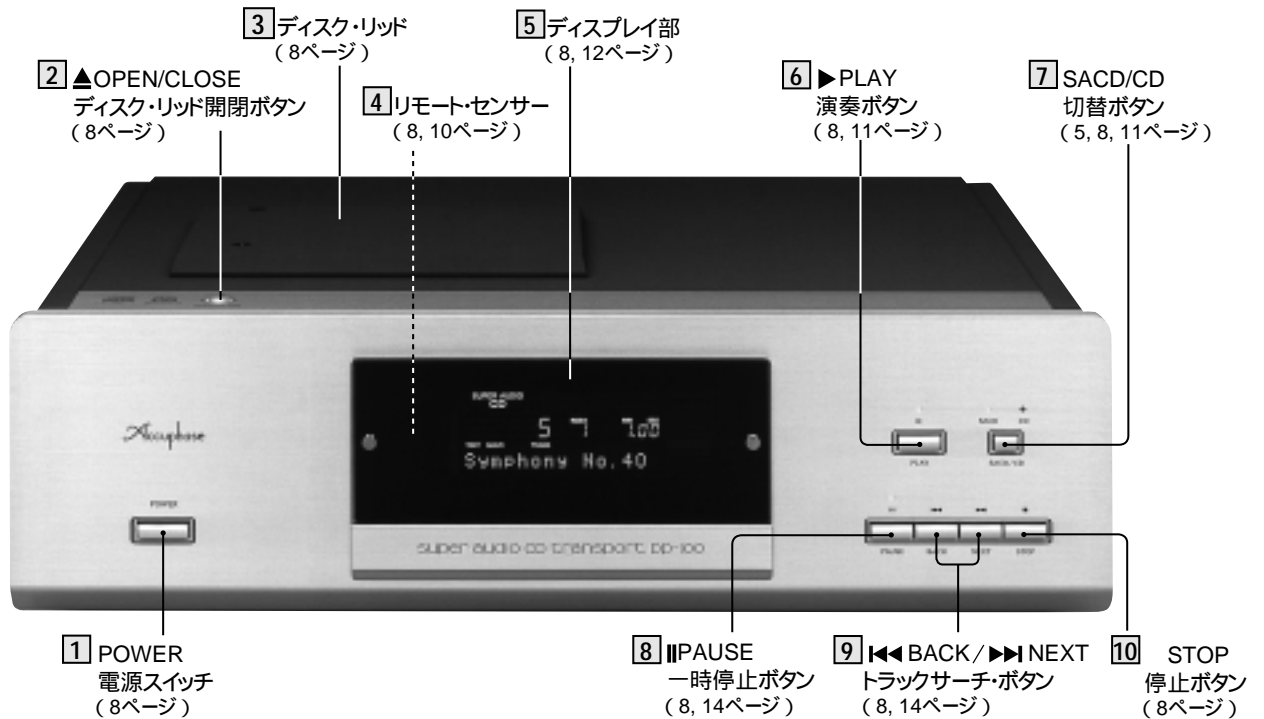
目次

1. 各部の名前	1, 2
フロントパネル/リアパネル	1
ディスプレイ部/リモート・コマンダー	2
2. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください	3
3. ⚠ 注意	3
接続上の注意	3
使用上の注意	4
4. 使用する前に	5, 6
付属品を確認します	5
DP-100の録音について	
SACDのデジタル録音	5
SACDのアナログ録音	5
CDのデジタル録音	5
CDのアナログ録音	5
本機で再生できるディスク	5
他の機器との接続	6
電源コードの接続	6
5. 接続図	7
6. 各部の動作説明	8, 9
7. リモート・コントロール	10
8. ご使用方法	11 ~ 19
演奏の基本操作	11
ディスプレイ部	
再生中のディスプレイ	12
ストップ(停止)状態でのディスプレイ	12
ディスプレイ・モードの切替	12
TEXT情報のディスプレイ	13
いろいろな演奏方法	
途中で演奏を中止するには	14
演奏を直に開始しないとき	14
トラック(曲)を指定して演奏	14
曲の途中の演奏したい部分を探す	15
リピート(繰り返し)演奏	16
シャッフル演奏	17
プログラム演奏	18, 19
9. DP-100を活用する組み合わせ例	20 ~ 23
DC-330に接続	20
DP-75Vに接続	20
DP-100とDC-330, DF-35をデジタルで接続	21
DP-100とDG-28の組み合わせ例	22, 23
10. DP-100を活用するオプション	24 ~ 26
11. 保証特性	27
12. ブロック・ダイアグラム	28
13. 故障かな?と思われるときは	29
14. アフターサービスについて	30

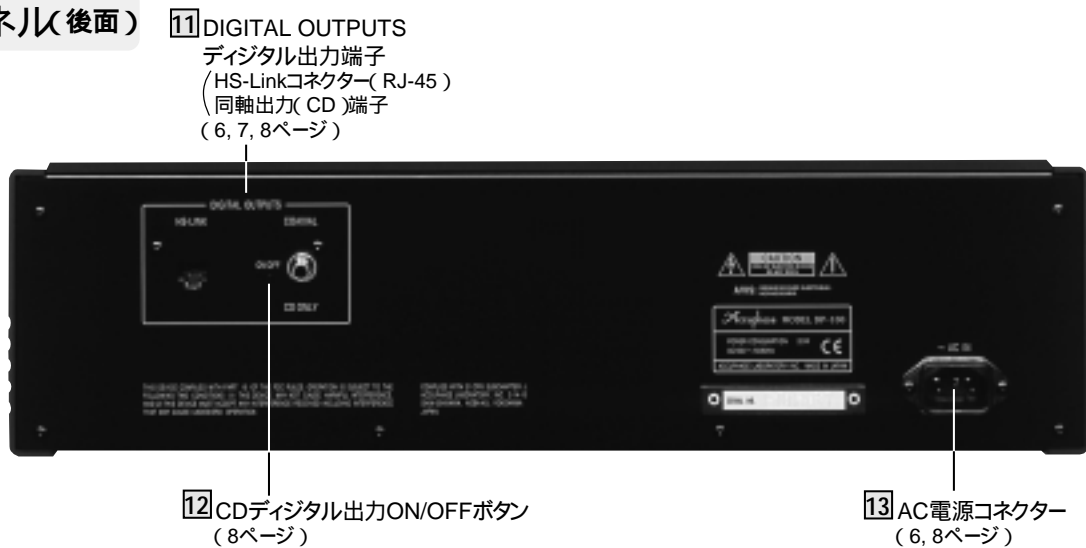
1. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)

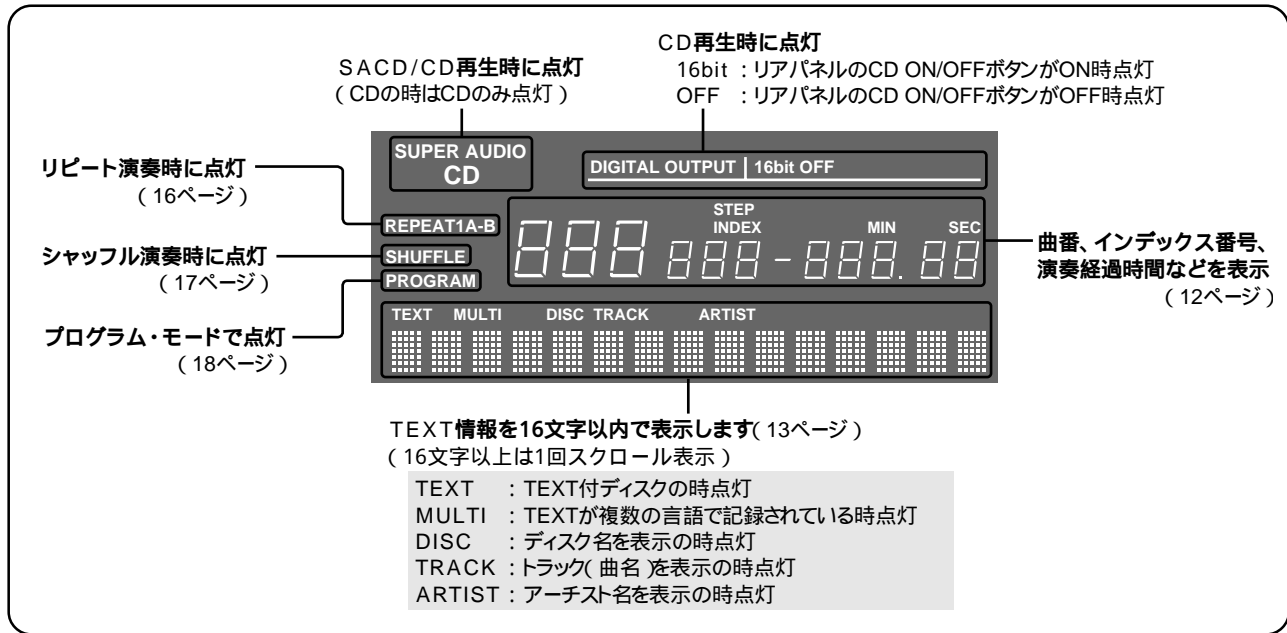


リアパネル(後面)



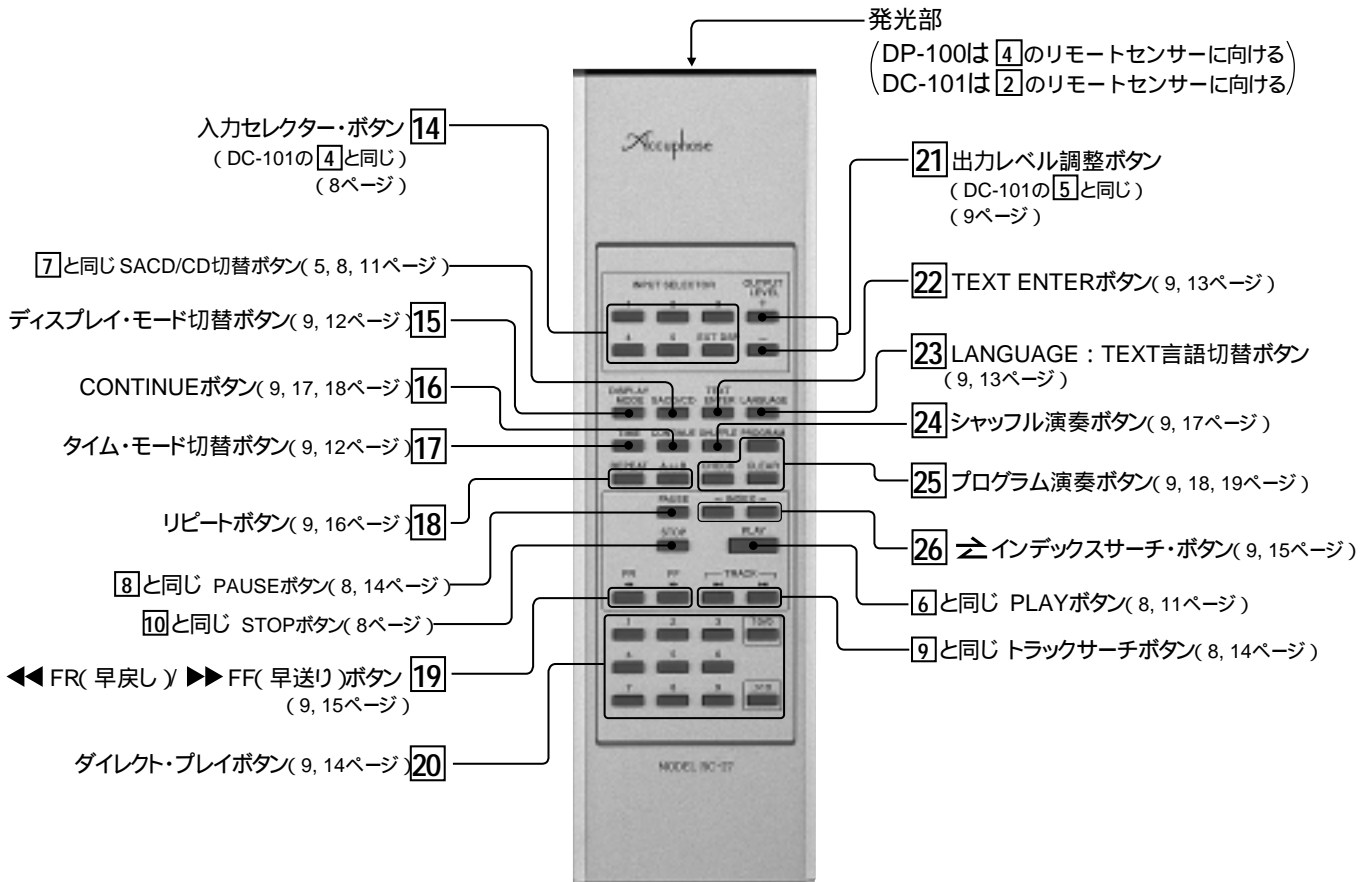
5 ディスプレイ部 (イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります)

12ページ参照



リモート・コマンダー RC-27(付属)

(使用方法は10ページ参照)



2. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100Vをご使用ください。
AC100V以外(海外)では使用できません。
電源周波数は50/60Hzいずれの地域でも使用できます。

電源コードは取り扱いを誤ると危険です。
付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。火災、感電などの原因となります。
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

ディスク・リッドについて
ディスク・リッドの上や開閉範囲内に物や手を置かないでください。
ディスク・リッドの開閉時に手を挟み込むと危険です。けがや故障の原因となります。

本機はレーザーを使用していますが、レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目にあたると、視力障害の原因となることがあります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。

脚の交換は危険ですから行わないでください。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

次の場合には、電源コードをコンセントから抜き、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
故障や異常(発煙やおいなど)と思われる場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。

3. 注意

設置場所について
必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 極端に寒い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と重ねての使用は避けてください。

チューナーやテレビ、ビデオデッキから離して設置してください。

近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

接続上の注意

DP-100と他の機種との接続について
DP-100は、SACD/CDデジタル出力専用トランスポートです。HS-LinkからのSACD/CD信号は、HS-Linkだけしかデジタル伝送はできません。DP-100と他の機種とを接続してSACDの演奏を楽しむためには、オプション・ボードが必要になったり、接続上の注意が必要です。

SACDの通常の演奏

- デジタル・プロセッサDC-101に接続(7ページ)
- デジタル・プリアンプDC-330に接続(20ページ)
- CDプレーヤーDP-75Vに接続(20ページ)

DP-100とDC-330、DF-35をデジタルで接続
(21ページ)

DP-100とDG-28との組み合わせ(22、23ページ)

DP-100の録音について(5ページ)

- SACDのデジタル録音... 不可
- SACDのアナログ録音..... アナログ・プリアンプのREC端子で可能
- CDのデジタル録音..... 同軸端子の出力で第1世代可能
- CDのアナログ録音..... プロセッサでD/A変換後可能

使用上の注意

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしないでください。

POWERスイッチは、各機器が正しく接続されるまで入れないでください

音量の調整について

SACDは、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。音が出ていないときでも、不用意に音量を上げると、ノイズが出たり思わぬ大音量が出て、アンプやスピーカーを破損する場合があります。演奏を始める前は、大音量にならないように必ず音量を小さくしておいてください。

HS-Linkケーブルの接続

本機は、SACD/CDデジタル出力だけの専用トランスポートです。接続は、HS-Linkコネクタを装備しているオーディオ機器にHS-Linkケーブルで入力してください。

必ず付属のHS-Linkケーブルを使用してください。

誤ってコンピューターのLAN等に使用すると、それぞれの機器やシステムを壊すおそれがあります。

CDだけの演奏や録音の場合は、COAXIAL(同軸)端子からピンプラグ付75 同軸ケーブルで接続します。

本体を持ち運ぶときは

ターンテーブルに入っているディスクとスタビライザーは必ず取り出しておいてください。

ディスク・リッドは必ず閉めてください。

ディスクを入れたとき

本体から発音音や機械音が聞こえることがあります。これは、各ディスクに合わせて、本体内部のサーボが自動調整を行うために出る音で、故障ではありません。

戻ったディスクを入れたとき、再生中に自動調節機能が働き、本体から機械音が聞こえることがあります。

スタビライザーについて

スタビライザーは必ず付属のものをお使いください。付属以外のものを使うと、故障の原因となります。

再生が始まる時間について

本機は、一般的なCDプレーヤーに比べて、ディスクをローディングしてから演奏が始まるまで、時間が長かかりますが故障ではありません。

本体内部で、ディスクの種類判別、サーボ調整、著作権保護の確認などをディスクごとにおこなっているためです。

ターンテーブルのお手入れ

ターンテーブルが汚れると、音質低下の原因となります。お手入れは、ターンテーブルの側面を指で軽く回して、乾いた綿棒等を軽く当てて行ってください。

光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラス一面に水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいますが、CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

ストーブなど、暖房器具をつけた直後

湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったりまったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

ディスクの取り扱いについて

直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。

演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。

レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。

ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。

ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

本体のお手入れ

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

入出力端子などに接点保護剤などを使用しますと、樹脂部が経年変化で破損する場合がありますので使用しないでください。

4. 使用する前に

付属品を確認します

取扱説明書.....	1冊
安全上のご注意.....	1冊
お客様カード.....	1枚
AC電源コード(2m).....	1本
HS-Linkケーブル(HDL-15).....	1本
スタビライザー.....	1個
単4形乾電池.....	2個
リモート・コマンダー RC-27.....	1個

DP-100の録音について

SACDのデジタル録音

著作権保護のため、SACDのデジタル録音はできません。
 なお、HS-Linkコネクタからのデジタル信号は、HS-Linkコネクタからのみ出力されます。それ以外の端子からは出力できません。

SACDのアナログ録音

DC-101, DP-75VでD/A変換後、アナログ・プリアンプのREC端子から録音します。
 HS-Linkからの信号は、アナログ用各オプション・ボードのOUTPUTS端子からは出力できません。したがって、DC-330ではSACDのアナログ録音はできません。

CDのデジタル録音

COAXIAL(同軸)端子からのCDデジタル信号を録音することができます。

DC-101, DC-330, DP-75Vに接続し、デジタル出力オプション・ボードのOUTPUTS端子からも録音することができます。
 HS-LinkコネクタからのCDデジタル信号は、録音できません。
 デジタル録音は、SCMSにより第1世代だけになります。

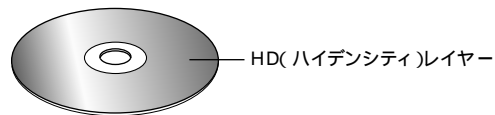
CDのアナログ録音

COAXIAL(同軸)端子からのCDデジタル信号を、D/A変換後アナログ録音することができます。

DC-101, DC-330, DP-75Vに接続し、アナログ出力オプション・ボードのOUTPUTS端子から録音します。
 DC-101, DP-75Vに接続後、アナログ・プリアンプのREC端子から録音します。

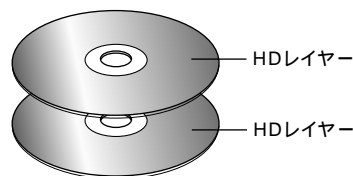
本機で再生できるディスク

SACD：シングルレイヤー・ディスク



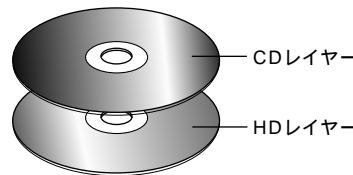
HD(ハイデンシティ)レイヤー単層のSACDです。
 HDレイヤーは、SACD用の高密度信号層です。

SACD：デュアルレイヤー・ディスク



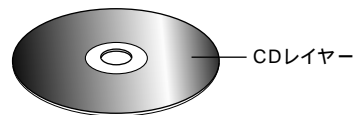
HDレイヤーが2層になっているディスクで、長時間再生が可能なSACDです。
 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。

SACD+CD：ハイブリッド・ディスク



HDレイヤーとCDレイヤーが2層になっているディスクです。
 SACD/CDボタンを押して、希望の層を選択します。
 片面2層構造のため、再生時裏返す必要はありません。
 CDレイヤーは、通常のCDプレーヤーでも再生することができます。

CD



従来フォーマットのCDです。

本機で再生できないディスク

CD-ROM	DVD
DVD-Audio	CD-RW

誤って使用すると、エラーメッセージ『TOC Error』が表示されたり、ノイズを発生する場合があります。
 CD EXTRA, CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしない場合があります。

他の機器との接続

HS-Linkコネクター

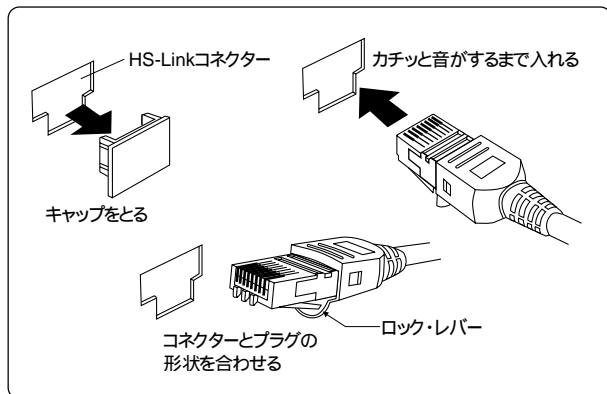
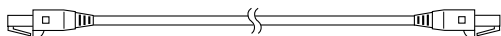
付属以外のHS-Linkケーブルは使用できません。

SACD/CDの再生は、HS-LinkケーブルでHS-Linkコネクターを装備している機器と接続します。

本体のHS-Linkコネクターのキャップを取り外し、HS-Linkケーブルのプラグを端子の形状に合わせて、カチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。

抜くときは、プラグのロック・レバーを押しながら、軽く引き抜いてください。

HS-Linkケーブル(1.5m) : HDL-15(DP-100に付属)



注意

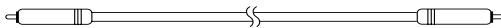
HS-LinkコネクターからのSACD/CDデジタル信号は、デジタル録音することはできません。
CDをCD-R,MD,DAT等に録音する場合は、COAXIAL(同軸)端子からの信号を使用してください。

COAXIAL(同軸)端子

CDのみのデジタル信号出力端子です。

CDの再生または録音する場合は、同軸端子を装備している機器と接続します。ケーブルは、75Ω同軸デジタルケーブルを使用してください。

同軸デジタルケーブル



電源コードの接続

AC電源コネクターと、本機に付属の電源コードを接続します。

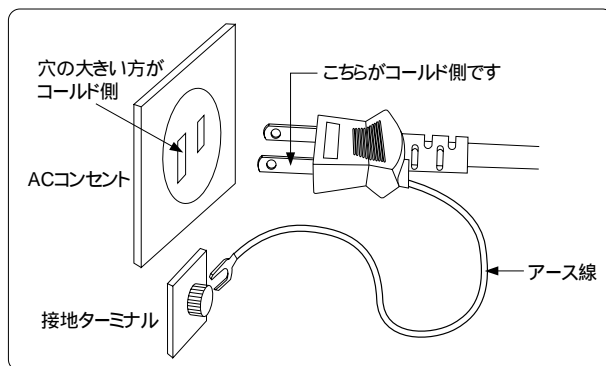


警告

電源は必ずAC100V、50/60家庭用コンセントをご使用ください。

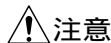
電源コードに付いているアース線の接続

AC電源コネクターと、本機に付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



電源コードの極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。接続する機器の極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合がありますが、合わせなくても実用上問題にはなりません。本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を厳密に管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にご覧ください。



注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示する場合があります。



警告

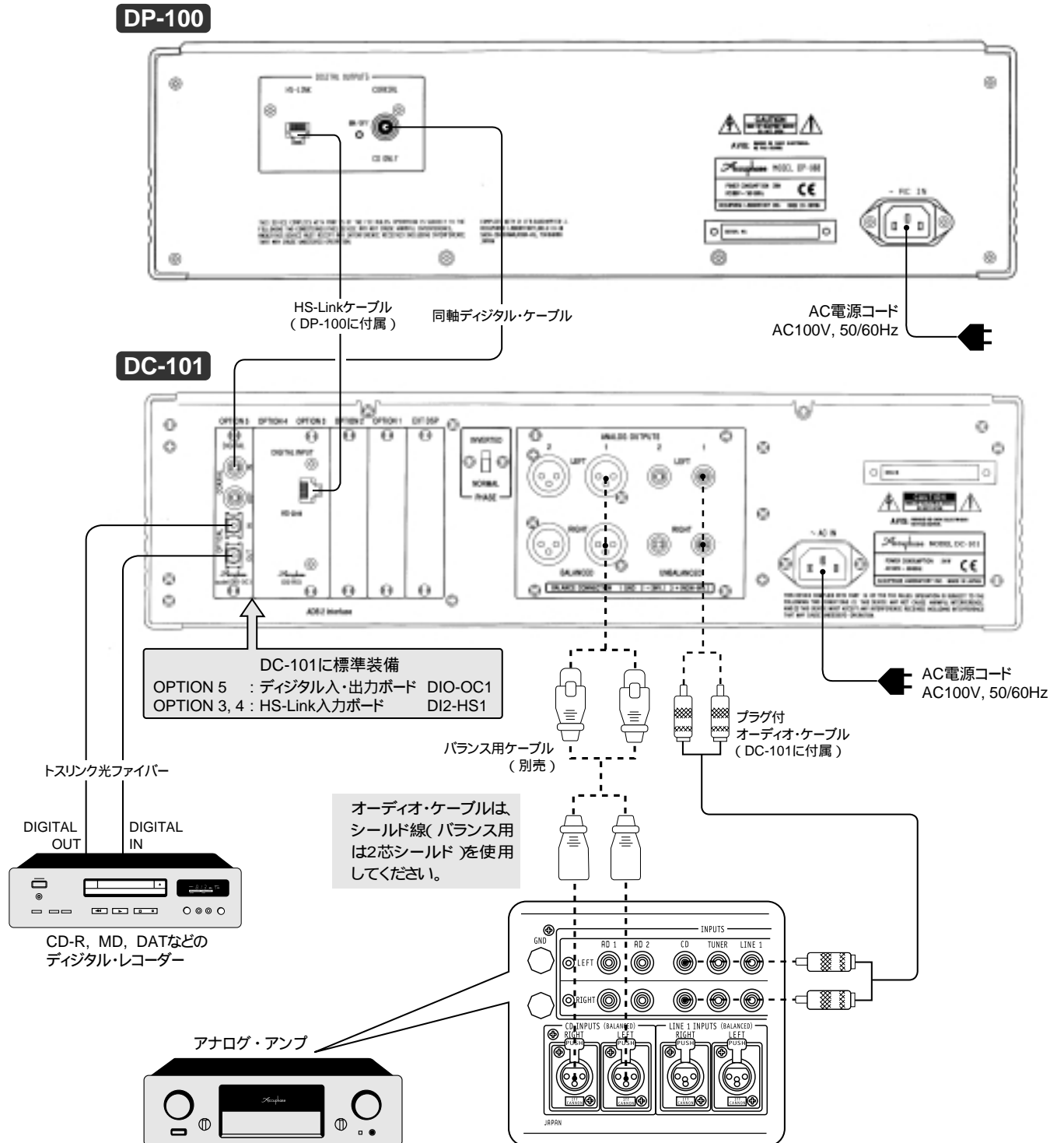
内部をあけると危険です

電源が入らなくなった場合には、内部で異常が発生した可能性があります。電源コードを抜いて、必ず当社の品質保証部または当社製品取扱店へご連絡ください。

5. 接続図

標準的なDC-101との接続例です。
DC-101以外の機器との接続は20～23ページを参照してください。

⚠注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。



6. 各部の動作説明

詳しい使用方法は()内のページを参照してください。

1 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

電源スイッチをOFFにすると、一部の機能(ディスプレイOFF、シャッフルONなど)を除いて、それまでに設定された機能は解除されます。

2 ▲OPEN/CLOSEボタン(11, 14ページ)

押すと、ディスク・リッドがスライドして開きます。もう一度押すと閉じます。

3 ディスク・リッド(11ページ)

▲ OPEN/CLOSE ボタンを押すとスライドして開きます。

▲ OPEN/CLOSE ボタンをもう一度押すか、▶ PLAY ボタンを押すと閉じます。

4 リモート・センサー(10ページ)

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-27の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

5 ディスプレイ部(12ページ)

さまざまな情報を表示します。

6 ▶ PLAY(演奏)ボタン(11ページ)

演奏を開始するときに押します。

7 SACD/CD切替ボタン(11ページ)

停止中に動作します。

押すたびに、パネル面のLEDインジケーターが点灯して、SACDとCDが切り替わります。

演奏するディスクの種類に合わせて切り替えます。

ハイブリッド・ディスク以外は、入っているディスクを自動的に選択して演奏します。

8 || PAUSE(一時停止)ボタン(14ページ)

演奏を一時停止するときに押します。

9 ◀◀BACK / ▶▶NEXT トラックサーチ・ボタン(14ページ)

◀◀BACKトラックサーチ・ボタン

演奏中や一時停止の状態、1回押すとその曲の頭に戻ります。さらに押すと前の曲の頭に飛びます。

▶▶NEXTトラックサーチ・ボタン

1回押すごとに次の曲の頭へ飛びます。

10 STOP(停止)ボタン(14ページ)

演奏中や一時停止中にこのボタンを押すと演奏停止になります。

11 DIGITAL OUTPUTS(6, 7ページ)

HS-Link(RJ-45): SACD/CDデジタル出力端子

付属のHS-Linkケーブルで、デジタル・プロセッサと接続します。

SACD/CDボタンで選択したデジタル信号を出力します。

COAXIAL(同軸): CDデジタル出力端子

CD専用のデジタル出力端子です。

75 同軸ケーブルでデジタル・プロセッサ、MD等と接続します。

12 CDデジタル出力ON/OFFボタン

ON : 通常はONにします。

OFF : COAXIALおよびHS-Link端子の両方の『CDのデジタル信号』がOFFになります。

13 AC電源コネクタ(6, 7ページ)

付属の電源コードを接続します。

14 INPUT SELECTOR: 入力セレクター・ボタン(DC-101の取扱説明書参照)

DC-101のオプション・ボードに接続された入力信号を選択します。

1, 2, 3, 4, 5

オプション・スロット番号を選択します。

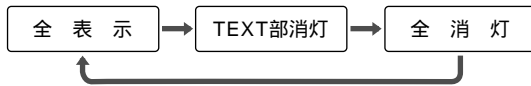
EXT DSP

EXT DSPスロットに接続した、DG-28の接続をON/OFFします。

発光部をDC-101のリモート・センサーに向けます。

15 DISPLAY MODE: ディスプレイ・モード切替ボタン
(12ページ)

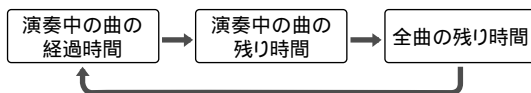
押すごとにディスプレイのモードが切り替わります。
ポーズ中や停止中には全消灯できません。

**16** CONTINUE ボタン(17, 18ページ)

シャッフルやプログラム再生中に押すと、通常の演奏に戻ります。

17 TIME: タイム・モード切替ボタン(12ページ)

押すごとにタイム・モードが切り替わります。

**18** リピート(繰り返し演奏)ボタン(16, 17ページ)

REPEAT

ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して演奏します。

A↔B 指定区間の繰り返し演奏)

指定区間の繰り返し演奏をします。

19 ◀◀FR(早戻し)▶▶FF(早送り)ボタン(15ページ)

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させることができます。ボタンを押し続けている間作動します。

PLAY(演奏)中は、◀◀FRボタンを押し続けて先頭に到達すると、先頭で止まりボタンを離すと再びPLAY(演奏)を開始します。PAUSE中は、停止したままです。

▶▶FFボタンを押し続けて演奏が終了すると、「OVER!!」と表示してポーズ状態になります。

20 ダイレクトプレイ・ボタン(14ページ)

トラック番号を直接指定して、演奏を開始させます。PAUSE中、演奏中であってもこのボタンが優先します。

21 OUTPUT LEVEL: 出力レベル調整ボタン
(DC-101の取扱説明書参照)

DC-101のアナログ出力のレベルを可変します。

デジタル方式により、0dB ~ -84dBの可変および出力OFFが可能です。

発光部をDC-101のリモート・センサーに向けます。

22 TEXT ENTERボタン(13ページ)

TEXT付ディスクを入れた場合、TEXT情報を表示します。

23 LANGUAGE: TEXT言語切替ボタン(13ページ)

複数の言語で記録されたTEXT付ディスクの場合、言語表示を切り替えます。

24 SHUFFLE: シャッフル演奏ボタン(17ページ)

シャッフル(ランダム)に全曲を一回演奏になります。

25 プログラム演奏ボタン(18, 19ページ)

PROGRAM

ディスクの中から聴きたい曲だけをピックアップして、好きな順序で演奏を楽しむことができます。

CHECK(プログラム・チェック)

プログラムした曲の順番を確認します。

CLEAR

プログラムした曲を削除します。

26 ㊦ INDEX:
インデックス・サーチボタン(15ページ)

インデックス付きディスクの場合、そのインデックスの頭から演奏を始めることができます。

7. リモート・コントロール

リモート・コマンダーRC 27

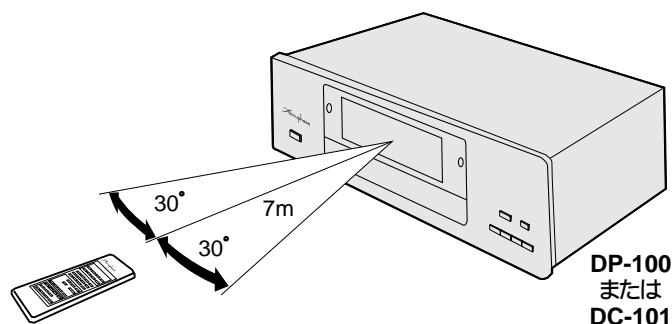
本機に付属しているリモート・コマンダーRC 27を使うと、離れたところからDP 100(またはDC 101の一部)の機能をコントロールすることができます。

(機能の詳細は2ページ参照)

使用法

リモート・コマンダーの発光部をDP 100本体の④(またはDC 101本体の②)リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヵ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

⚠ 注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕(プラス) ⊖(マイナス)を正しく合わせてください。

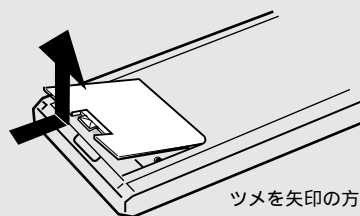
新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。

同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。

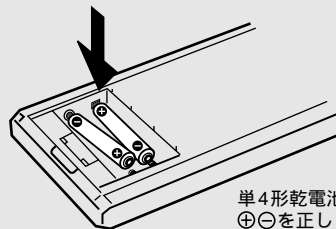
長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておいてください。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。

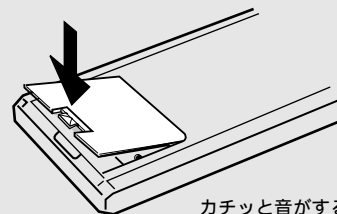
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押して蓋を開ける。



単4形乾電池2個、
⊕⊖を正しく入れる。

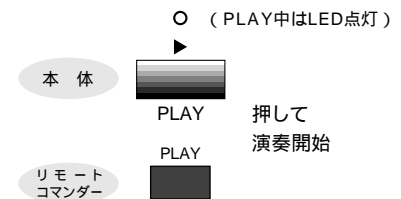
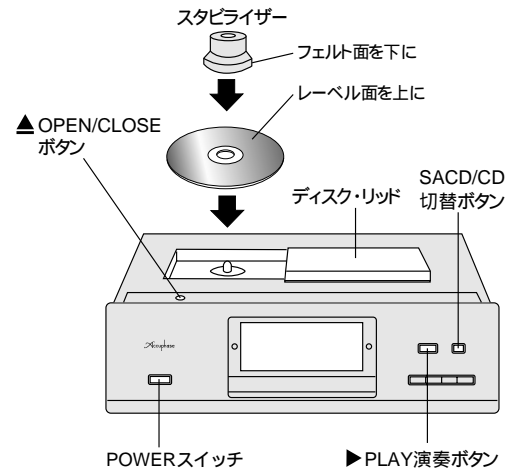


カチツと音がするまで閉める。

8. ご使用方法

演奏の基本操作

- 1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。
- 2 ▲**OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・リッドを開けます。
- 3 レーベル面を上にして、ディスクを置きます。
付属のスタビライザーを、フェルト面を下にしてディスクの上に置きます。
注意:スタビライザーを置かないと、『No Stabilizer』と表示し演奏を始めることはできません。
- 4 ハイブリッド・ディスクの場合は**SACD/CD** ボタンを押して、SACDかCDを選択します。
押すたびに、SACDとCDのインジケーターが切り替わります。
演奏するディスクの種類に合わせて、どちらかを選びます。
(ディスクの種類は、5ページを参照)
ハイブリッド以外のディスクは▶**PLAY** ボタンを押すと、自動的に選択して演奏が始まります。
- 5 ▶**PLAY** ボタンを押します。
ディスク・リッドが閉まり、『CLOSE』 『Loading』 『TOC Reading』と表示の後、第1曲目から演奏がはじまります。
音量はアンプのボリュームで調整します。
- 6 最後の曲の演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 7 ▲**OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・リッドを開けます。
ディスクを取り出したあと、ディスク・リッドは必ず閉じておいてください。



演奏中の基本操作

- 演奏停止(ストップ) STOPボタン
- 演奏を一時停止(ポーズ) || PAUSEボタン(ポーズ中はLED点灯)
- 一時停止をやめて演奏再開 ▶ PLAYボタンまたは || PAUSEボタン
- 1曲先に進む ▶▶ NEXTボタン
- 演奏中の頭または1曲前に戻る ◀◀ BACKボタン
- ディスクを取り出す ▲ OPEN/CLOSEボタン

注意

ディスクを入れてない時は、必ずスタビライザーを取り出しておいてください。
一般のCDプレーヤーと比較すると、▶ **PLAY** ボタンを押してから演奏が始まるまで、時間が長
くかかりますが、故障ではありません。これは、ディスクの種類の判別、サーボ調整、著作権保護の確
認等を内部で自動的にしているためです。

電源を入れたとき、ディスクが入っていると自動的に演奏が始まります。市販のタイマーとの組み合わせにより、希望の時間に演奏を開始することができます。

ハイブリッド(SACD+CD)ディスクの再生時に、聞きたい層を切り替える場合
STOP ボタンを押して一旦再生を止め、**SACD/CD** ボタンで希望の層を選択してください。

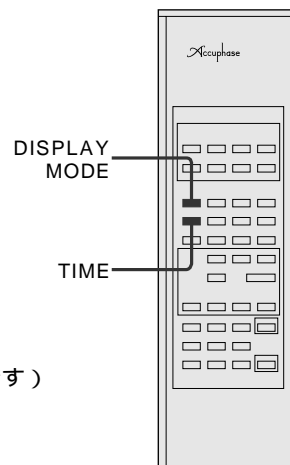
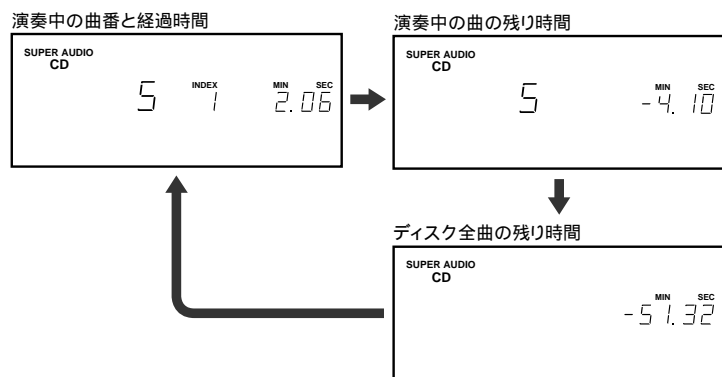
ディスプレイ部

ディスプレイ部は、ディスクや再生中の曲に関するいろいろな情報を表示します。
ディスクのストップ状態や再生中などの状態によって、表示する内容が変化します。

再生中のディスプレイ (イラストはテキスト情報OFFの状態です)

TIME ボタンを押す

押すたびに、演奏中の曲番と経過時間、演奏中の曲の残り時間、ディスク全曲の残り時間を繰り返し表示します。



ストップ(停止)状態でのディスプレイ (イラストはテキスト情報OFFの状態です)

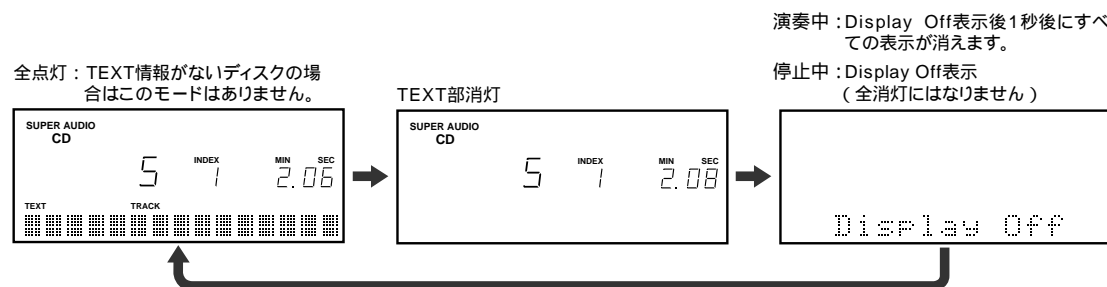
TIME ボタンを押す

ディスクの全曲数と全再生時間を表示します。



ディスプレイ・モードの切替

DISPLAY MODE ボタンを押すたびにディスプレイ・モードが切替ります。



TEXT情報のディスプレイ

TEXT付ディスクは、音楽信号の他にディスク名やアーティスト名などの情報が記録されています。

TEXT付ディスクを入れると、『TEXT』と表示します。

複数の言語で情報が記録されている場合は、『TEXT』と『MULTI』を表示します。

演奏中のTEXT情報

再生中の曲名が表示します。

TEXTの情報が16文字以上のときは、一度スクロール表示し、その後最初の15文字が表示されます。

TEXT
ENTER

ボタンを押すともう一度スクロール表示します。

停止中のTEXT情報

TEXT
ENTER

ボタンを押す

押すたびに、ディスク名 アーティスト名を繰り返し表示します。

アーティスト名表示のときは、『ARTIST』と表示します。

複数の言語で記録されているディスクのTEXT情報

複数の言語で情報が記録されているディスクは、表示を切り替えて他の言語で見ることができます。

ディスクを入れると、『TEXT』と『MULTI』を表示します。

停止中にLANGUAGEボタンを押す。

現在選択されている言語名(English, French, Germanなど)が点滅表示します。

本機で表示することができない言語が記録されていた場合は、『Other Lang』と表示します。

さらにLANGUAGEボタンを押して、希望の言語名を表示させる。

TEXT
ENTER

ボタンを押す。

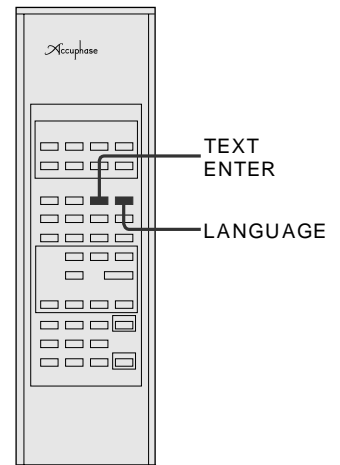
選択した希望の言語で情報を表示します。

注意

本機が表示できるのは、英数字だけです。日本語は表示できません。

ディスクによっては、表示できない文字があります。

本機が表示できるTEXT情報は、ディスク名、アーティスト名、曲名だけです。その他の情報は表示できません。



注意

TEXT付ディスクが、一つの言語だけで記録されている場合は、LANGUAGEボタンを押したとき、その言語を数秒間表示します。

TEXT付ディスクを演奏中に、LANGUAGEボタンを押すと、現在表示している言語名をしばらく表示します。

いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには

一時停止は

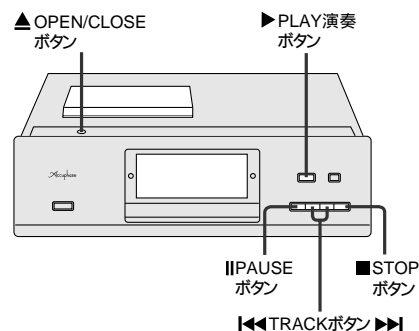
|| [PAUSE] ボタンを押します。LEDインジケーターが点灯して演奏は停止します。一時停止を解除するときは、再度 || [PAUSE] ボタンまたは ▶ [PLAY] ボタンを押してください。停止したところから演奏が始まります。

演奏を止めるには

■ [STOP] ボタンを押します。■ [STOP] ボタンを押した場合は、続きの演奏はできません。

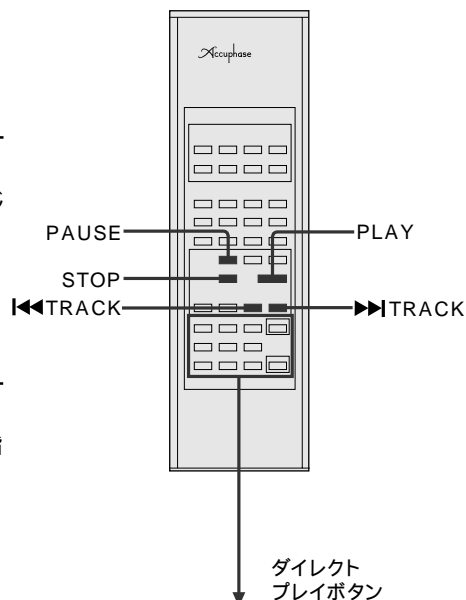
ディスクを取り出すときは

演奏中でも、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押します。



演奏を直に開始しないとき

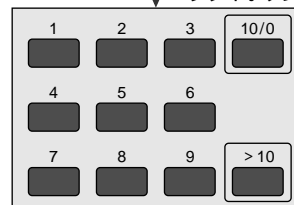
ディスクを置いてから、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、ディスク・リッドが閉じてスタンバイ状態になります。



トラック(曲)を指定して演奏

演奏中やポーズ(一時停止)ストップ状態のとき、**ダイレクト・プレイ** ボタンを使うと、指定の曲の頭から演奏を開始することができます。トラック(曲)の番号を直接押して選局します。

1	~	9	その番号の曲から演奏開始
10/0	10曲目を演奏		
11曲目以降の演奏は >10 ボタンを使用します			
例: 15曲目の演奏	>10	→ 1 → 5
30曲目の演奏	>10	→ 3 → 10/0
100曲目の演奏	>10	→ >10 → 1 → 10/0 → 10/0



演奏中に、◀◀/▶▶トラックサーチ・ボタンを使って、任意の曲を選択します。ポーズ(一時停止)中にダイレクトプレイ・ボタンを押すと、押した曲の頭でポーズのままになります。ポーズ(一時停止)のとき、◀◀/▶▶トラックサーチ・ボタンを使って、任意の曲を選択し、▶ [PLAY] ボタンを押します。

曲の途中の演奏したい部分を探す

演奏中に探す

◀◀FR / ▶▶FF ボタンを押し続けます。

再生音が断続的に聞えますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。
その部分から演奏を始めます。

ポーズ(一時停止)中に探す

◀◀FR / ▶▶FF ボタンを押し続けます。

再生音は聞えません。
時間表示をみながら、希望の部分に近づいたらボタンを離します。
その部分で一時停止になります。

インデックスで探す: インデックス・サーチ

演奏中または一時停止中に、インデックス・サーチ・ボタンを使用すると、希望のインデックス番号の先頭から演奏を始めることができます。

◀ (INDEX) ボタン

押すごとに、前のインデックスの先頭に戻ります
一回押すと、演奏しているインデックスの頭に戻ります

▶ (INDEX) ボタン

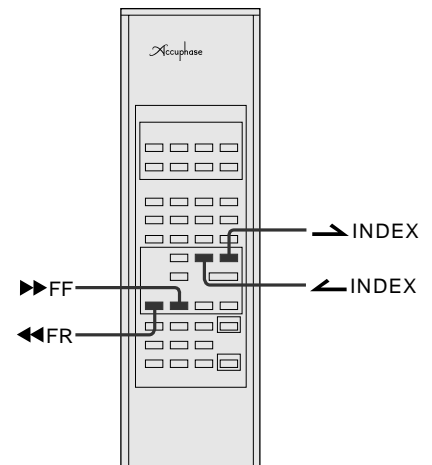
押すごとに、次のインデックスの先頭に進みます
INDEXがないディスク(1を表示)の場合、押すと「NO Index」と表示します。

INDEXとは...

1曲の中で、いくつかの部分に区切って番号を付けたものです。
インデックス付のディスクには、表示がついています。
インデックス・サーチは、インデックス付ディスクで有効です。

注意

ディスプレイに『Over』と表示されたときは...
最後の曲の終わりまで進んでいますから
◀◀FRボタンで戻してください。



リピート(繰り返し)演奏

ディスク全曲 / 1曲 / 指定した特定部分の繰り返し演奏ができます。

シャッフル再生やプログラム再生のときでも可能です。
 全曲および1曲リピートは、本機の電源を切っても記憶されます。ただし、A Bリピートは、電源を切ると消去されます。

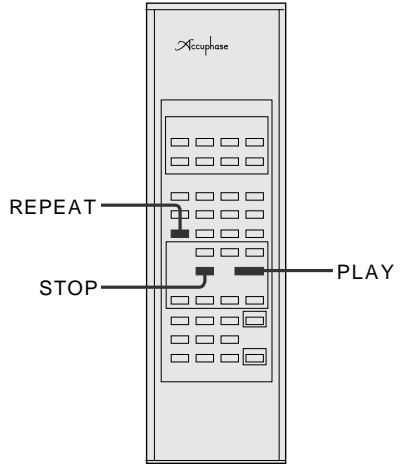
ディスク全曲の繰り返し演奏：全曲リピート

[REPEAT] ボタンを1回押して、▶ [PLAY] ボタンを押す。
 ディスプレイ上に『REPEAT』と表示され、全曲リピートが始まります。

- 通常の再生の場合 全曲を順番に再生
- シャッフル再生の場合 繰り返すたびに曲番が変わる
- プログラム再生 プログラムの曲順に再生

全曲リピートを中止するには...
 ■ [STOP] ボタンを押す

通常の演奏に戻すには...
 ディスプレイ上の『REPEAT』が消えるまで、[REPEAT] ボタンを繰り返し押します。



1曲の繰り返し演奏：1曲リピート

繰り返したい曲の再生中に、ディスプレイ上に『REPEAT 1』と表示されるまで、
 [REPEAT] ボタンを繰り返し押す。
 1曲リピートが始まります。

1曲リピートを中止するには...
 ■ [STOP] ボタンを押す

通常の演奏に戻すには...
 ディスプレイ上の『REPEAT』が消えるまで、[REPEAT] ボタンを繰り返し押します。

1 曲中の指定区間の繰り返し演奏: A↔Bリピート

1曲中で聞きたい部分を指定し、そこだけを繰り返し演奏することができます。

- 1 演奏中に、繰り返しの始点(A点)で **A↔B** ボタンを押す
ディスプレイ上の『REPEAT』が点灯し、『A - 』が点滅します。
- 2 そのまま演奏を続けて、繰り返しの終点(B点)で **A↔B** ボタンを押す
『REPEAT A - B』が点灯し、A↔Bリピートが始まります。
▶▶FFボタンを使うと、手早くB点を決めることができます。

A↔Bリピートを中止するには...

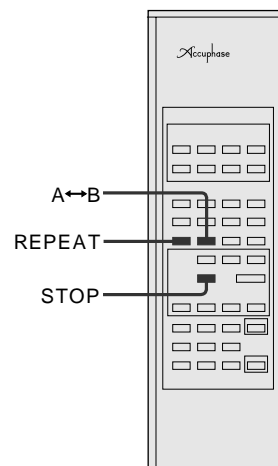
REPEAT ボタンまたは **STOP** ボタンを押すと、通常の演奏に戻ります。

繰り返す指定区間を先に進めるには...

- 1 A↔Bリピート演奏中に **A↔B** ボタンを押す
ディスプレイ上の『REPEAT』が点灯し、『A - 』が点滅します。今の終点が始点(A点)に変わります。
- 2 そのまま演奏を続けて、新しい繰り返しの終点(B点)で **A↔B** ボタンを押す
『REPEAT A - B』が点灯し、新たに指定したA↔Bリピートが始まります。


注意

1曲の範囲を超えて指定することはできません。



シャッフル演奏

ランダムに全曲を1回ずつ演奏します。

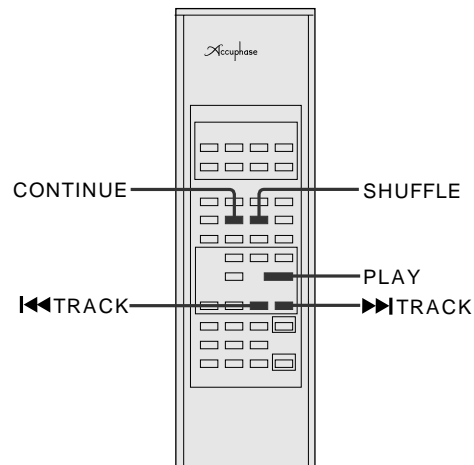
- 1 停止中に、**SHUFFLE** ボタンを押す。
- 2 ▶ **PLAY** ボタンを押す
シャッフル演奏が始まります。
次に演奏する曲が決まる間は、ディスプレイに  が回転表示します。
全曲をランダムに1回ずつ演奏が終わると停止します。

通常の演奏に戻すには...

CONTINUE ボタンを押す。

次に演奏する曲を頭出しできます。

- ▶▶ ボタンを押すと、次に演奏する曲の頭出しをします。
- ◀◀ ボタンを押すと、演奏している曲の頭に戻ります。すでに演奏が終わっている曲には戻りません。



プログラム演奏

自分でプログラムして、聴きたい曲だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。プログラムには、99曲(または合計時間999分59秒)まで登録することができます。

プログラムするには

- 1 停止中に、**PROGRAM** ボタンを押す

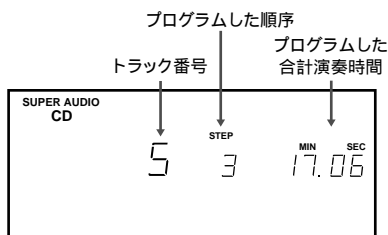
PROGRAMが点灯してプログラム開始可能となります。
演奏中や一時停止中にプログラム演奏のセットはできません。

- 2 ダイレクトプレイ・ボタンを押して、曲番を入力する。

ボタンを押して曲番を入力すると、トラック番号、プログラムした順序、プログラムした曲の合計演奏時間が表示されます。

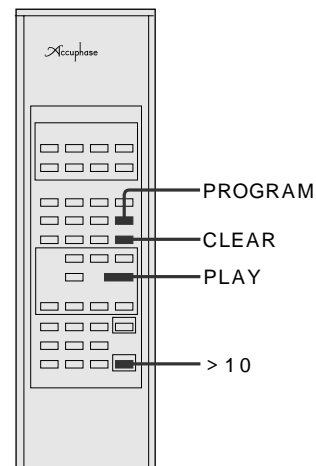
曲番を押しまちがえたときは、**CLEAR** ボタンを押してもう一度入力します。

11曲目以降の入力は、**>10**を使用します。(14ページ参照)



- 3 プログラムが終わったら、▶ **PLAY** ボタンを押す。

プログラムした順序で演奏が始まります。



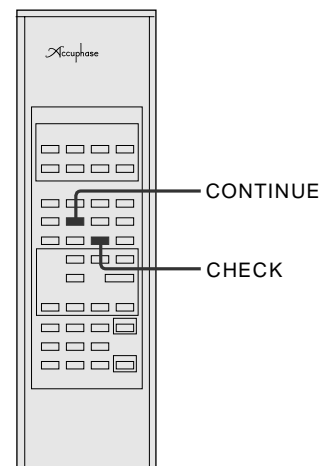
普通の再生に戻すには

CONTINUE ボタンを押します。

プログラムの演奏順序や曲数がチェックできる

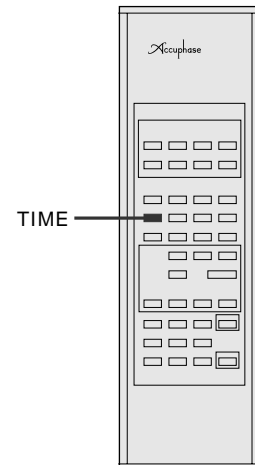
演奏の前や演奏中に、**CHECK** ボタンを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に曲番とその曲の合計時間がディスプレイされます。演奏中はそれ以降の曲のプログラムから表示します。

そのままにしておけば、2秒後に解除されて、ボタンが押される前の状態に復帰します。



プログラム演奏中にTIMEボタンを押すと

押すたびに、**演奏中の経過時間** **演奏中の曲の残り時間** **プログラム全曲の残り時間**を繰り返し表示します。



プログラムした内容を変更する

演奏を始める前、または **STOP** ボタンを押して停止中のとき、プログラムの内容を変更できます。

プログラムした途中の曲を削除したいときは

STOP ボタンを押します。

CHECK ボタンを使って削除したい曲番を表示させ、**CLEAR** ボタンを押します。

PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にはできません。

プログラムした最後の曲から削除する

CLEAR ボタンを押す。

押すたびに、プログラムした最後の曲から消えます。

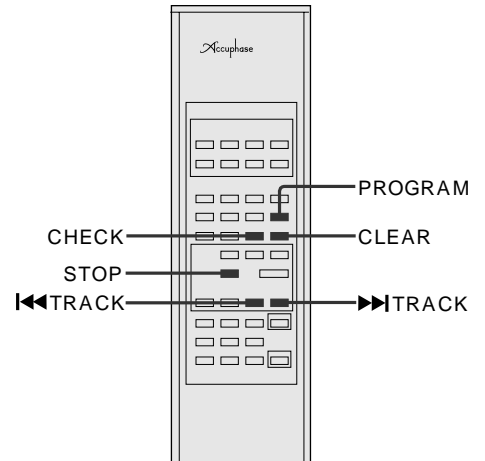
プログラムの最後に追加する

◀◀/▶▶トラックサーチボタンを押して追加したい曲を選びプログラム **PROGRAM** ボタンを押します。

リモートコ・マンダーの場合は、追加したい曲番のダイレクト・プレイボタンを押す。

セットしたプログラムをすべて削除したいときは

CLEAR ボタンを『All Clear』と表示されるまで押し続けます。



プログラム演奏のご注意

演奏が終ってもプログラムは残っています。▶ **PLAY** ボタンを押すと再び演奏が始まります。

本機の電源を切ったりディスク・リッドを開けるとプログラムは消えます。

プログラム演奏中に **STOP** ボタンを押すと、演奏は停止しますが、プログラムは解除されません。

プログラム演奏中に◀◀BACK TRACK / ▶▶NEXT TRACKボタンを用いれば、プログラム順序に従って、戻り/送りされ、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。

プログラム演奏中にダイレクトプレイ・ボタンは作動しません。

REPEAT(繰り返し)演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、A B REPEATはできません。

プログラム演奏中においてもINDEX(インデックス)ボタンを使用して演奏を楽しむことができます。

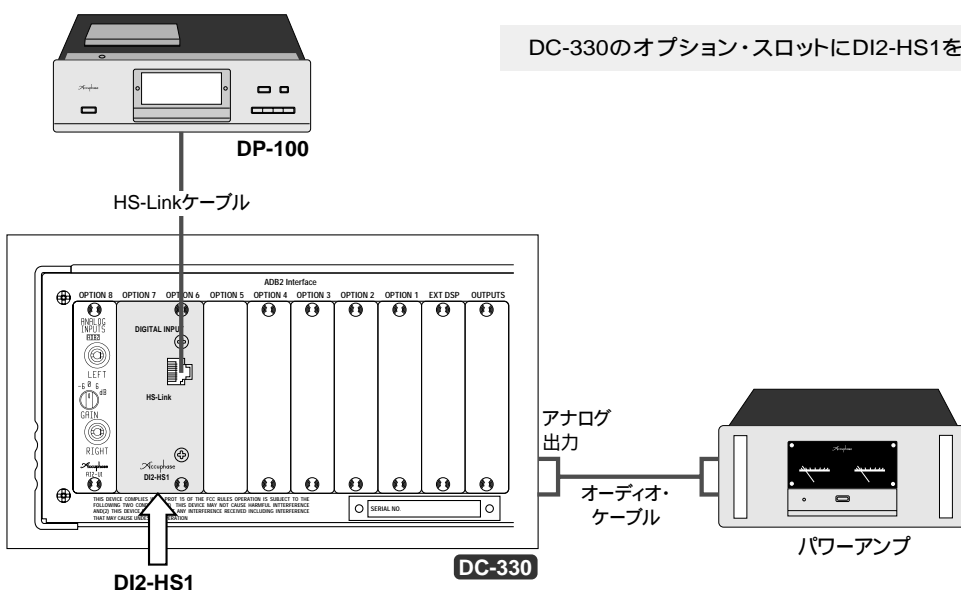
9. DP-100を活用する組み合わせ例

DP-100でSACDを再生するためにHS-Linkを使用すれば、DC-101以外にアキュフェーズが現在発売している、デジタル・プリアンプDC-330やCDプレーヤーDP-75Vとも組み合わせることができます。さらに他のオプション・ボードも使用すれば、ヴォイシング・イコライザーDG-28、チャンネル・ディバイダーDF-35などいろいろな機種との組み合わせも可能となり、高音質音楽メディアへの楽しみが一段と広がります。

HS-LinkケーブルはDP-100に付属

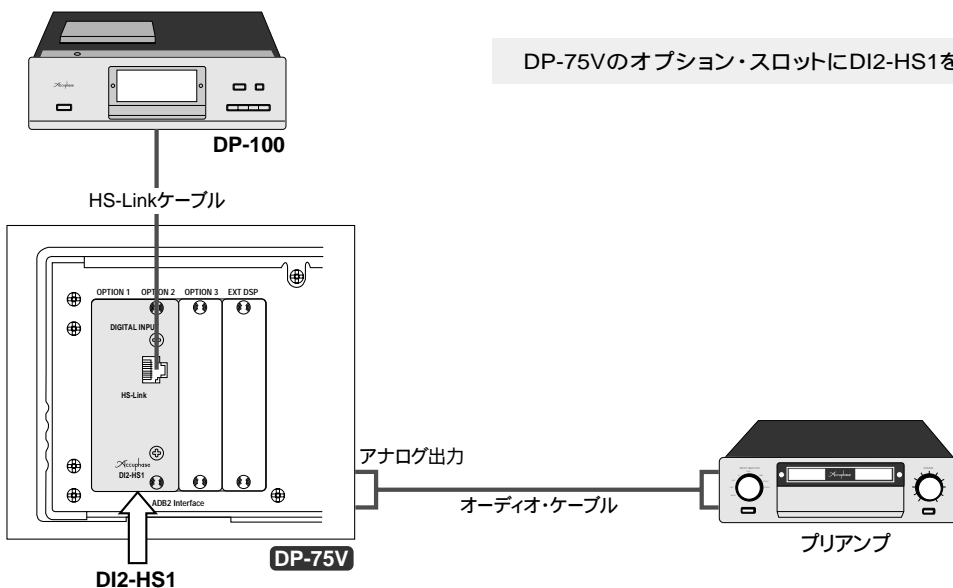
DC-330に接続

DC-330のオプション・スロットにDI2-HS1を増設



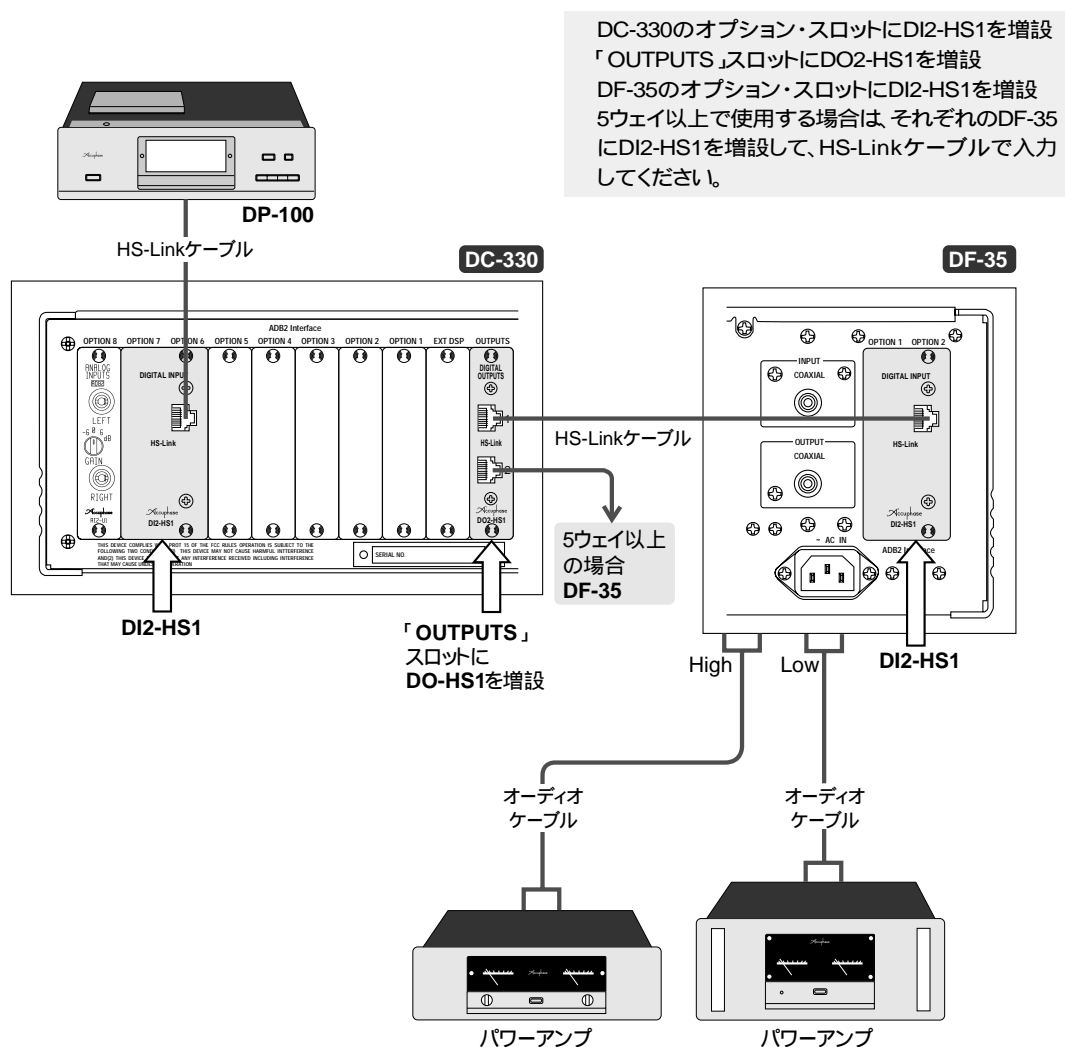
DP-75Vに接続

DP-75Vのオプション・スロットにDI2-HS1を増設



DP-100とDC-330, DF-35をデジタルで接続

HS-Linkにより、(DP-100) (DC-330) (DF-35)とパワーアンプ直前までデジタル接続が可能になります。それぞれの機種はHS-Linkケーブルで接続します。



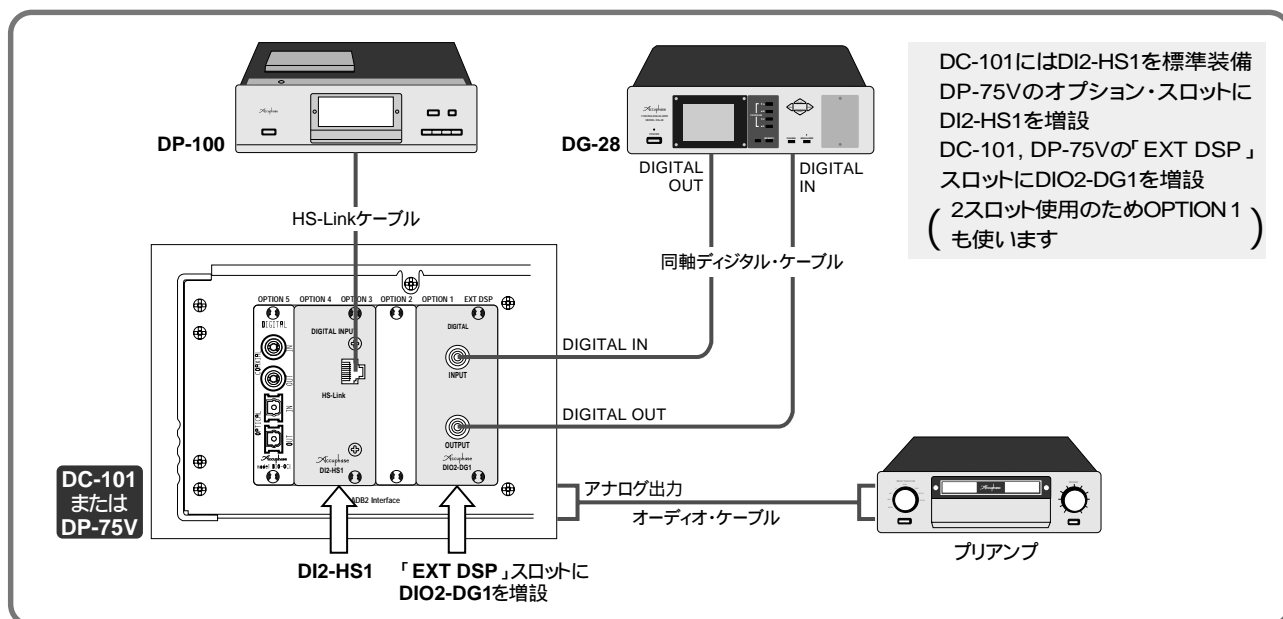
注意

DC-330へHS-Linkで入力したSACD/CD信号は、HS-Linkだけしかデジタル伝送できません。したがって、「OUTPUTSスロット」にHS-Link以外のデジタル出力用ボード(DIO-OC1など)を増設しても、出力はありません。

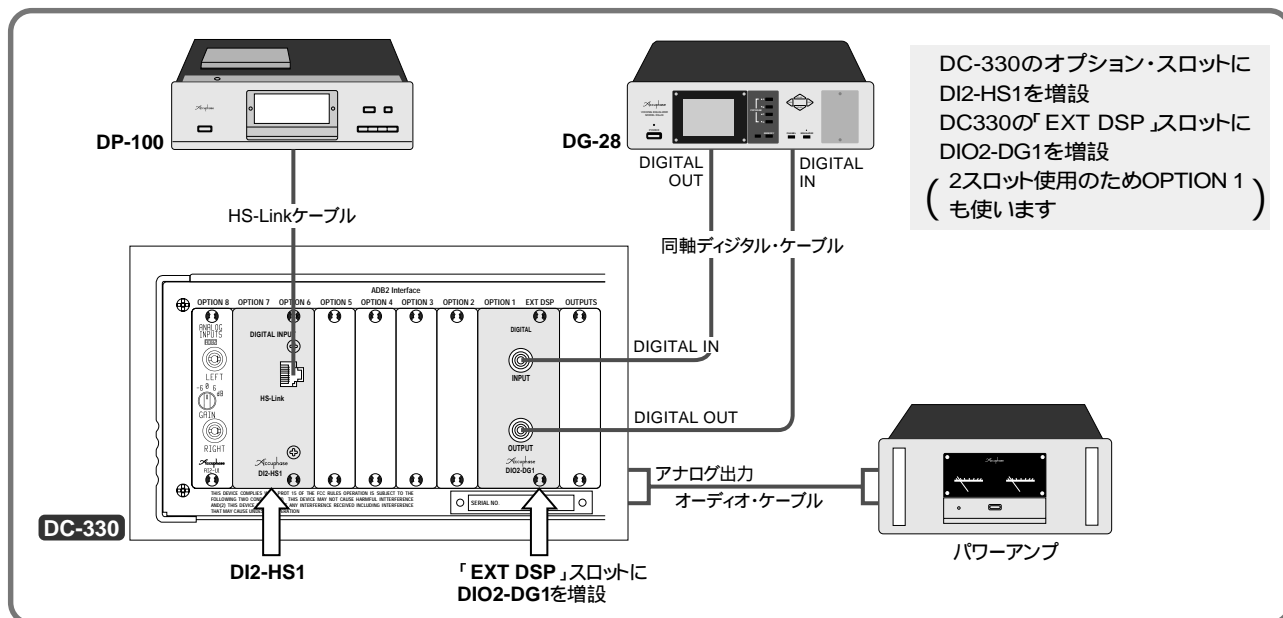
DP-100とDG-28の組み合わせ例

DG-28は、48kHz/24bit信号対応で、24kHzまでの可聴帯域成分のイコライジングが可能です。このため、SACDなどの48kHzを超えるハイサンプリング信号の場合には、『DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード：DIO2-DG1(25ページ)』または『DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード：AIO-DGU1, AIO-DGB1(26ページ)』で対応します。

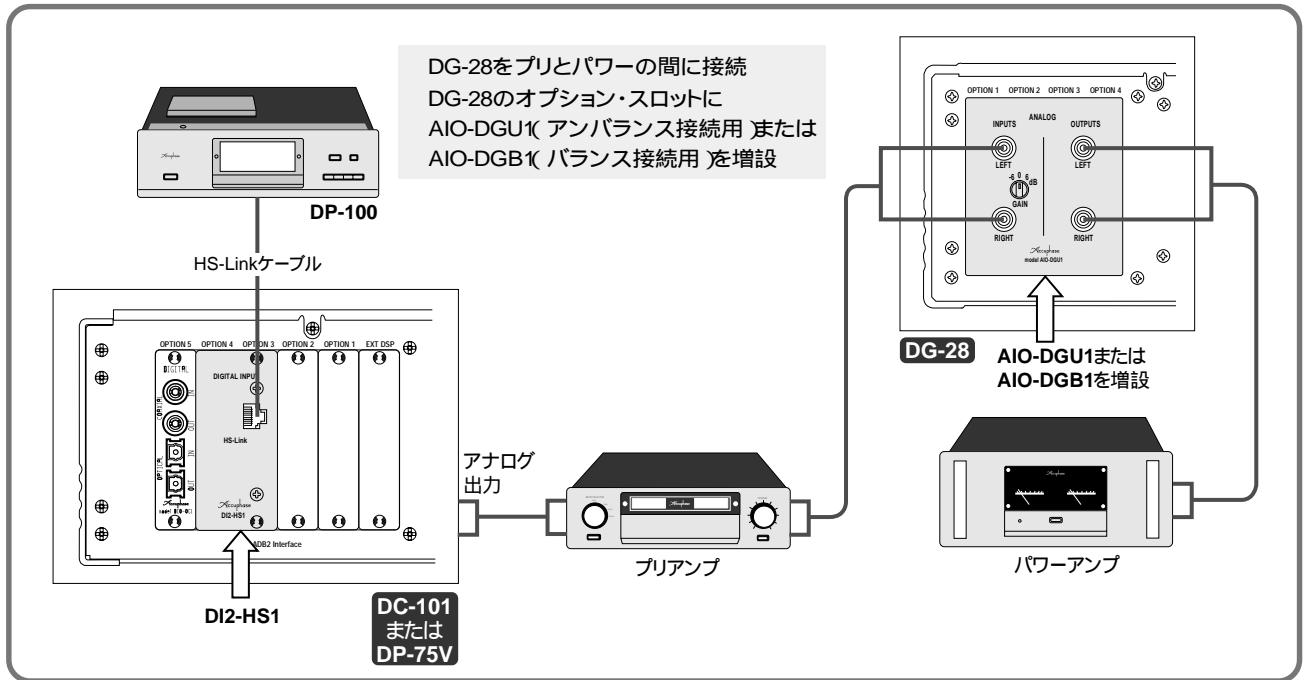
① DG-28をデジタル接続(DC-101またはDP-75V)する場合



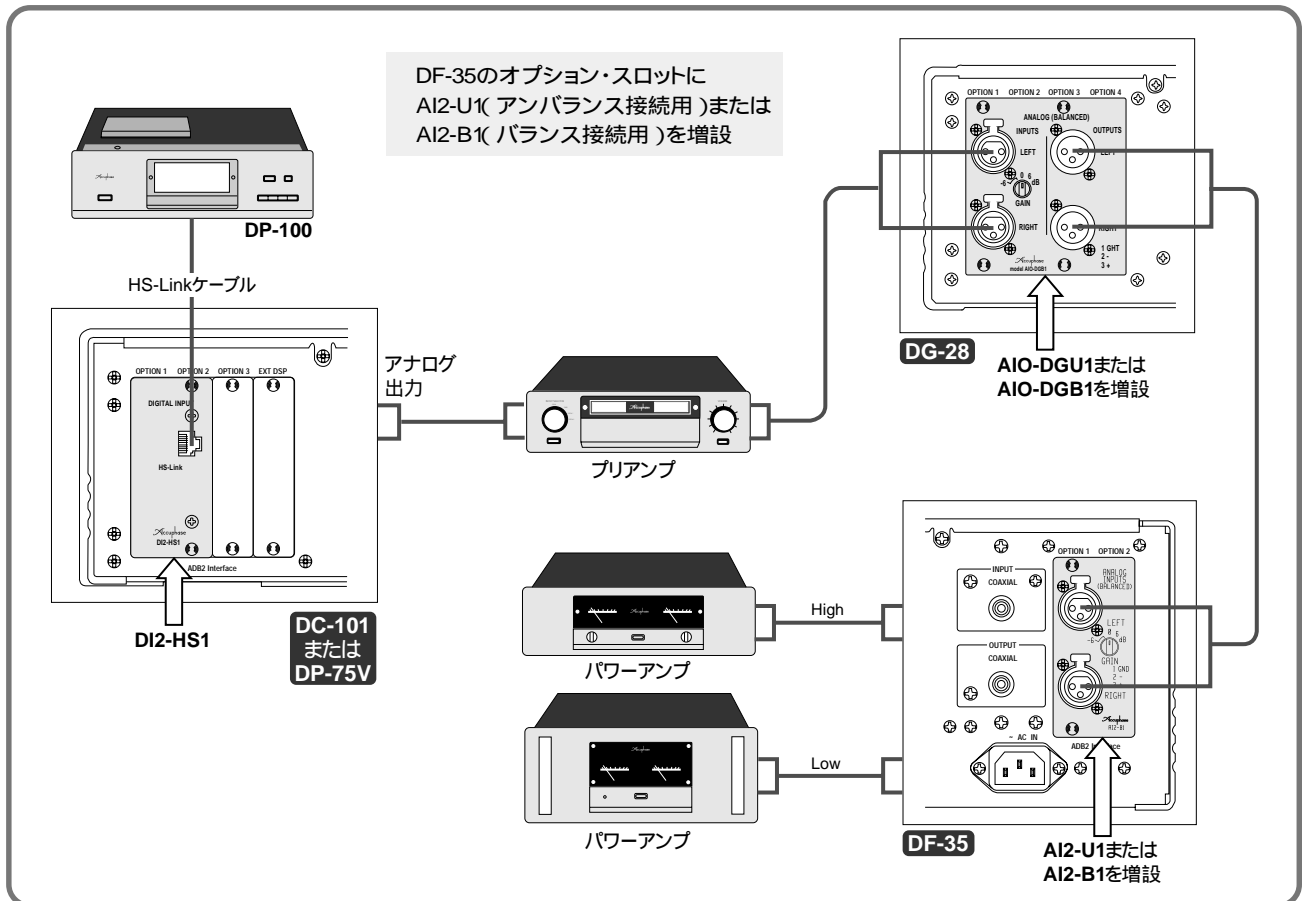
② DG-28をデジタル接続(DC-330)する場合



3 DG-28をアナログ接続する場合



4 さらにDF-35をアナログ接続する場合



10. DP-100を活用するオプション

DP-100と他の機種を接続して、広帯域、広ダイナミック・レンジのSACDの演奏を楽しむためには、HS-Linkインターフェースが必要です。HS-Linkインターフェースは、RJ-45コネクタに専用のHS-Linkケーブルを使用して接続します。DP-100を活用するため、HS-Linkで関連機種と信号をやり取りするオプションやオプション・ボード類を用意しています。これらオプション・ボードを使用すれば、いろいろな機種との組み合わせが可能になります。ここでは前の章の「DP-100を活用する組み合わせ例」で登場したオプションを紹介します。接続例は20～23ページを参照してください。

オプション・ボードの増設方法は、それぞれの機種の取扱説明書を参照してください。

*表示価格は税別です。

HS-Linkケーブル(1.5m) HDL-15

希望小売価格 10,000円

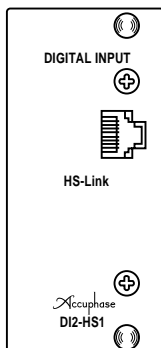
HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送するケーブルです。
HS-Link(RJ-45)コネクタの装備が必要です。

シールド付ツイスト・ペア8芯OFCケーブル(TIA/EIA-568A CAT.5)
DP-100に付属しています。

HS-Link入力ボード

DI2-HS1

希望小売価格 100,000円



HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link入力ボードです。

DC-101に標準装備しています。
DP-100をDC-330, DP-75V等に接続する場合に使用します。
専用のHS-Linkケーブルで接続します。
当社別売ケーブル：HDL-15

HS-Link出力ボード

DO2-HS1

希望小売価格 80,000円

HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する場合の、HS-Link出力ボードです。
このボードをDC-330に増設することにより、DP-100のデジタル信号がDC-330を経由してDF-35までデジタル伝送が可能となります。(接続例は21ページ参照)

DC-330の『OUTPUTS』スロットにDO2-HS1を増設して、DF-35と接続します。
DF-35の入力には、HS-Link入力ボード『DI2-HS1』を増設します。

専用のHS-Linkケーブルで接続します。
当社別売ケーブル：HDL-15

DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード DIO2-DG1 希望小売価格 100,000円

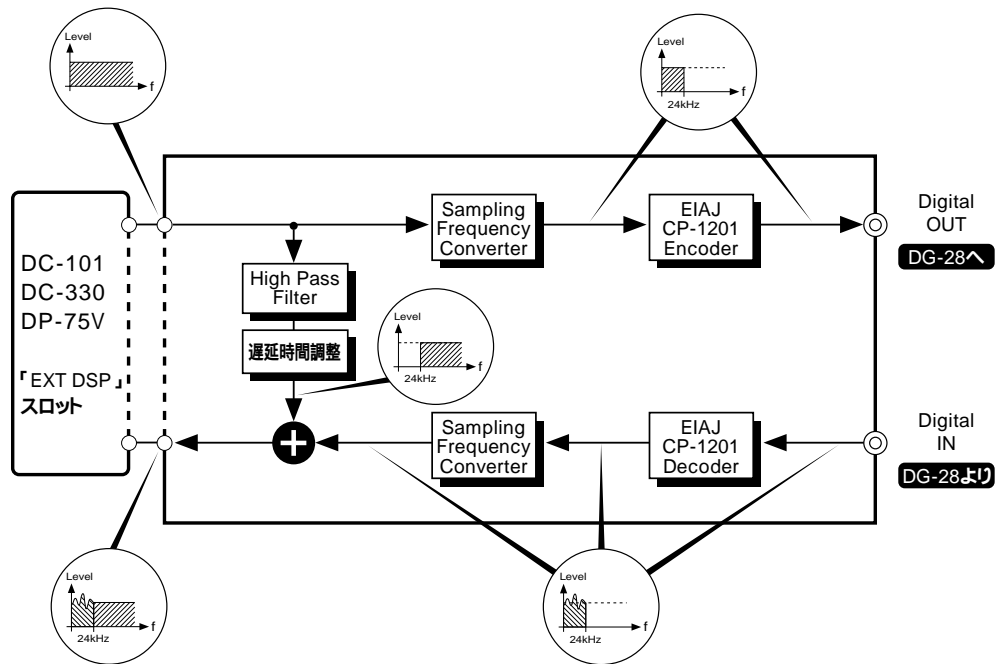
DC-101, DC-330, DP-75Vの『EXT DSP』スロットに増設して、DG-28をデジタル接続することができます。
(接続例は22ページ)

75 同軸デジタル・ケーブルで接続します。

DIO2-DG1に入った広帯域ハイサンプリング・デジタル信号は、サンプリング周波数 48kHzまたは44.1kHzに 変換して、24kHz(または22.05kHz)までの可聴帯域成分だけをDG-28に送りイコライジングします。24kHz(または22.05kHz)以上の成分は、ハイパス・フィルターによってDG-28に送らずにバイパスします。DG-28でイコライジング処理した信号と、バイパスした信号をボード内で合成して、DC-330, DC-101, DP-75V等にデジタル信号で渡します。

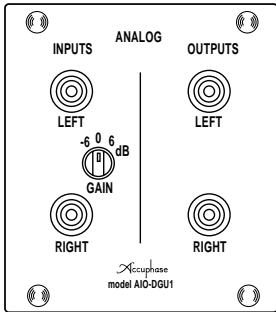
注意

Digital OUT端子の信号はCD-R, MD, DATなどの録音用として使用できません。



DIO2-DG1のブロック・ダイアグラム

DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード AIO-DGU1 希望小売価格 90,000円



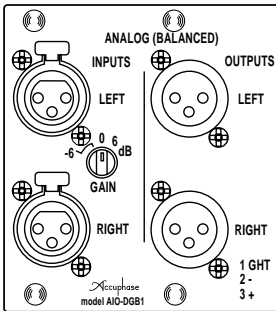
DG-28をアナログ・プリアンプとパワーアンプの間に接続する場合に使用します。
(接続例は23ページ)

DG-28のオプション・スロットに増設します。
アンバランス接続用で、4スロット使用します。

* GAINスイッチは通常0dBで使用しますが、入力オーバー(LEDが点滅)がひんばんに発生する場合には、-6dBにしてゲインをさげてください。

RCAピンジャック付オーディオ・ケーブル
当社別売:SL-15G等

DG-28用広帯域アナログ入・出力ボード AIO-DGB1 希望小売価格 100,000円



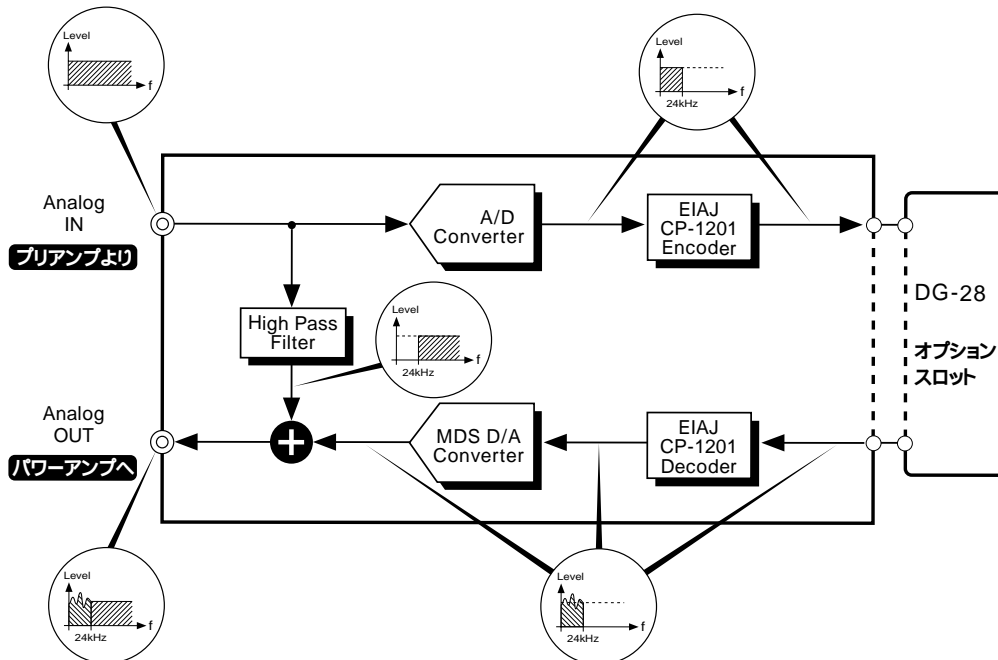
DG-28をアナログ・プリアンプとパワーアンプの間に接続する場合に使用します。
(接続例は23ページ)

DG-28のオプション・スロットに増設します。
バランス接続用で、4スロット使用します。

* GAINスイッチは通常0dBで使用しますが、入力オーバー(LEDが点滅)がひんばんに発生する場合には、-6dBにしてゲインをさげてください。

バランス用オーディオ・ケーブル
当社別売:SLC-15等

プリアンプからAIO-DGU1/AIO-DGB1に入力したアナログ信号は、高精度24bit A/Dコンバーターでサンプリング周波数48kHzのデジタル信号に変換され、DG-28に送りイコライジングします。24kHz以上のアナログ成分は、ハイパス・フィルターによってDG-28に送らずにバイパスします。DG-28でイコライジング処理した信号は、MDS方式高精度24bitD/Aコンバーターでアナログ信号に変換され、24kHz以上のバイパスした信号とボード内で合成して、パワーアンプに出力します。



AIO-DGU1、AIO-DGB1のブロック・ダイアグラム

11. 保証特性

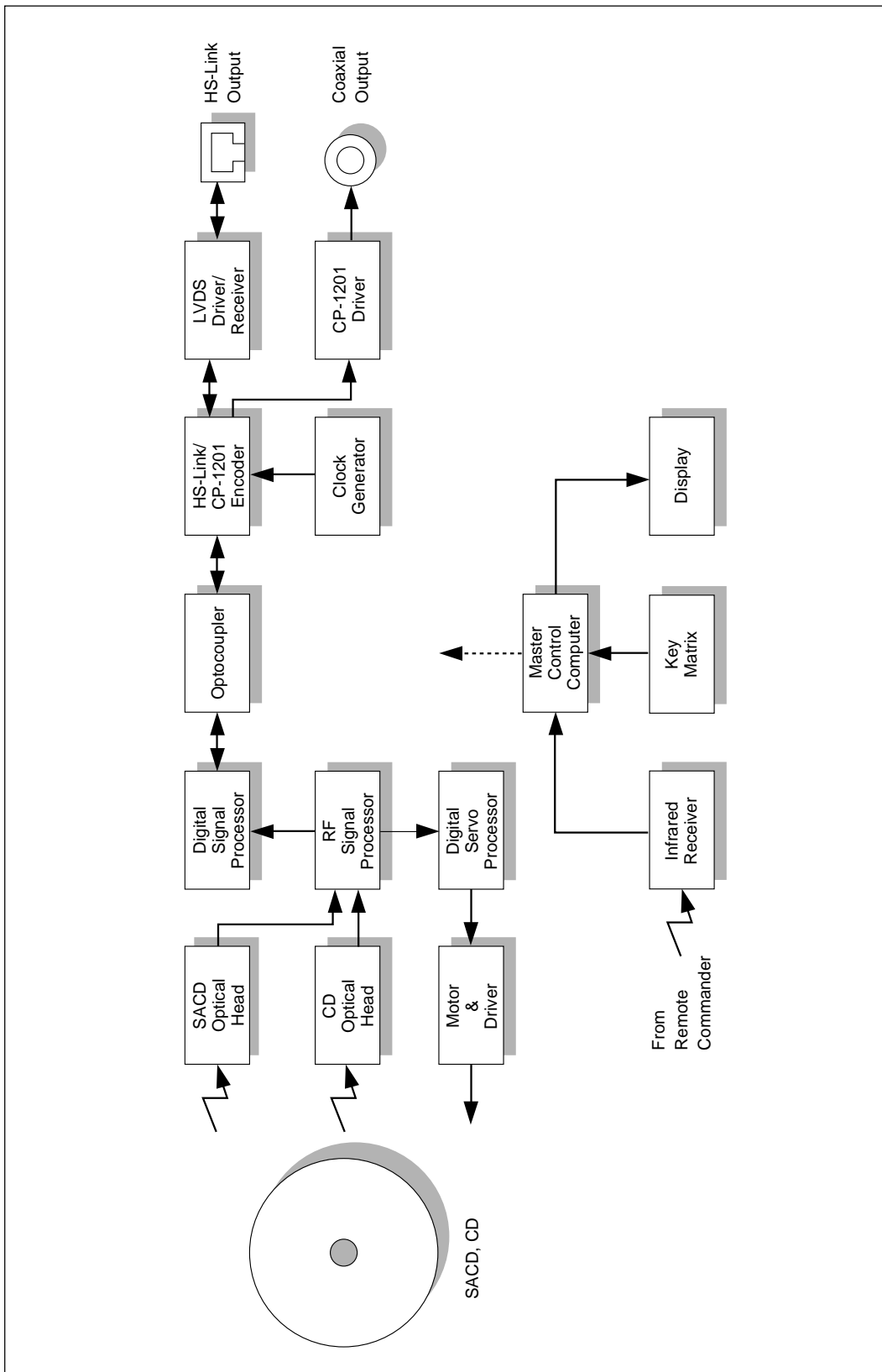
適合ディスク	2チャンネルSuper Audio CD CD
読み取り方式	非接触光学式
レーザー・ダイオード発光波長	SACD用 : 650nm CD用 : 780nm
デジタル出力	HS-Link コネクタ形状 : RJ-45 適合ケーブル : HS-Link専用ケーブル COAXIAL フォーマット : EIAJ CP-1201準拠
電 源	AC100V 50/60Hz
消費電力	20W
最大外形寸法	幅475mm×高さ160mm×奥行398mm
質 量	19.2kg
付属リモート・コマンダーRC-27	リモコン方式 : 赤外線パルス方式 電 源 : 単4形乾電池2個使用 最大外形寸法 : 66mm×223mm×20mm 質 量 : 276g(電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

著作権について


放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

12. ブロック・ダイアグラム



13. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

 注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切ってください。

電源が入らない

電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

プロセッサ側で周波数ロックしない

HS-Link、同軸などそれぞれ接続したケーブルをお確かめください。
プロセッサ側で入力した端子を選択してください。

CDだけ音が出ない

リアパネルの「CDデジタル出力ON/OFFボタン」はONですか?

演奏が始まらない

ディスクが正常に装着されていますか?
スタビライザーは入っていますか?
結露していませんか?(4ページ参照)
本機で演奏できるディスクですか?(5ページ参照)

音がでない。またはレベルが低い

プロセッサ側で周波数ロックはされていますか。
出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
プロセッサ側の出力レベルを確認します。

音が途切れたり雑音が出る。
演奏途中でディスクが止まる

ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。
新しい電池に交換してみましょう。
受光部付近に障害物はありませんか。

14. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。

保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。

保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。

オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。

補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。

使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

その他

改造されたものは修理ができない場合があります。

本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。

AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお願いいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508
横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

修理依頼の場合には

“故障かな?”と思われる場合には、をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号 ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店 故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 - 14 - 10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)